

# 第1学年2組 国語科学習指導案

平成29年2月9日（木）公開授業Ⅰ  
 平成29年2月10日（金）公開授業Ⅱ  
 会場 1階-A（1年2組教室）  
 授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校  
 教諭 桑原 浩二

## 1 単元名 心に残ったことを届けよう — 「思い出マイブック」をつくらう —

### 2 本単元の価値

学習指導要領の第1学年及び第2学年の「B 書くこと」には、次のように示されている。

#### (2) 内容

##### ①指導事項

(1) 書くこと的能力を育てるため、次の事柄について指導する。

ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。

オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。

##### ②言語活動例

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。

本単元では、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」といった一連の書くことの学習過程（以下、「文章化過程」とする）を重視にした上で、上掲の指導事項ア「経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること」及び指導事項イ「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」に指導の重点を置く。

本単元のねらいは、おうちの人に楽しかった餅つき大会のことをつながりのある文章に書き表すことである。本単元の価値は、大きく三つある。

一つめは、子どもが自分の思いを表出しやすいことである。本単元において題材に設定した餅つき大会は、普段の学習では味わえない達成感や充実感を得ることができる感動的な体験といえる。そのため、書いて伝えたいという意欲をもたせやすい題材である。したがって、子どもが進んで書こうとすることにつながる。また、餅つき大会は、「見る」「聴く」「嗅ぐ」「味わう」「触る」といった五感を働かせて取り組めるため、五感を使った表現も表出しやすい。

二つめは、事柄の順序に沿って書くことに適していることである。入門期の書くことの学習において、事柄の順序に沿ってつながりのある文章を書くことは大切なことである。そのため、題材にすべきは、子どもが事柄の順序をとらえやすいものだと考える。その点において餅つき大会は、「餅をつく」「餅にきな粉を付ける」「餅を食べる」など、したことの順序が明確である。したがって子どもは、餅つき大会でしたことを事柄の順序に沿って書くことができる。

三つめは、一年間の書くことの学習の振り返り、書く力の向上を自覚できることである。本単元で書き表す餅つき大会の文章を、年間を通じて作り上げてきた「思い出マイブック」のラストページとして綴る。「思い出マイブック」を完成させ、これまでの文章を読み返すことを通して、自分がどのくらい書く力が伸びたのかを自覚することができる。特に、一年の最初に書いた文章と最後となる本単元での文章とを比較することで、一年間の成長を確かめられる。

このように本単元では、文章化過程における「課題設定や取材」「構成」といった過程において、子どもが様々な資質・能力を発揮し、つながりのある文章を書き表すことを自覚できる学習を設定する。このような学習を経た子どもは、その後の学習や生活場面においても、書くことを集めたり、選択したりして、経験したことを明確に書き表すことができるようになる。

### 3 本題材で目指す姿

**書くために必要な事柄を収集・選択し、経験したことを明確に書き表す子ども**

具体的には、「言葉と相手や目的とを関係付けて考えること」という見方・考え方を働かせ、「構成表」を用いてツール活用能力を発揮し、「始め—中—終わり」の構成で、前後の語句や文のつながりが明確な文章を書き表す姿。

### 4 本単元で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く技能	○必要な事柄を収集する力 ○必要な事柄を多面的・多角的に精査し構造化する力	○経験したことや想像したこと、自分の思いを進んで書こうとする態度

## 5 指導の構想

本単元に入る前に、生活科において餅つき大会を行う。餅つき大会では、子どもが実際に杵と臼で餅をつき、餅にきな粉を付けておいしく味わうといった活動を行う。子どもは、餅つき大会に意欲的に取り組むことで達成感や充実感を得る。そのような子どもに、次の働き掛けを行う。

### 働き掛け1

経験と結び付く題材を提示し、どのようなことを書くかを問う。

問いをもたせるための働き掛けである。

生活科で行った餅つき大会を本単元の題材に設定する。「おうちの人に楽しかった餅つき大会のことを書いて伝えよう」と題材を提示することで、子どもは、経験したことや想像したこと、自分の思いを進んで書こうとする態度（③態度）を発揮して、書いて伝えたい気持ちを高める。ただし、文章を書いて伝えたいと考えてはいるが、この時点においては「どのように書けばよいのか」などと疑問を抱いている状態にある。これが問いをもった姿である。

### 働き掛け2

どのように書けばよいか方法を問う。

見通しをもたせるための働き掛けである。

問いをもった子どもに、「どのように書いていけばよいか」と文章化するための方法を問う。子どもはペアの友達と話し合うことで（協働性）、これまでの書くことの学習を想起し、「書くことを集めて選び（取材）、並べていけば（構成）、文章が書けそうだな」と文章化過程に沿って書けばよいと見通しをもつ。その際、文章を書いていくためには事柄を系列化するための思考ツールである構成表が活用できるととらえ、餅つき大会でしたことを構成表に順序よく並べていこうと考える。

### 働き掛け3

餅つき大会の感想を交流させ、したことを付箋紙に記述させる。

書くために必要な事柄を収集させるための働き掛けである。

見通しをもった子どもに、餅つき大会の感想を班で交流させる。子どもは、班で自由に感想を話し合うことを通して、「お餅をついたこと」「お餅にきな粉を付けたこと」「お餅を食べたこと」などと餅つき大会でしたことを想起する。その後、書くために必要な事柄を網羅的に収集させるために、付箋紙を配付する。子どもは「言葉と相手や目的とを関係付けて考えること」という見方・考え方を働かせて、必要な事柄を収集する力（②思考力・判断力・表現力）を発揮し、餅つき大会でしたことを思いつくままに付箋紙に書き出す。

### 働き掛け4

必要な付箋紙を選択させ、したことに対する気持ちや様子を問う。

収集した事柄を選択・系列化させるための働き掛けである。

したことを付箋紙に書き出した子どもに、「おうちの人に楽しかった餅つき大会を伝えるために必要な付箋紙はどれか」と文章化する上で必要な付箋紙を選択させる。子どもは、「言葉と相手や目的とを関係付けて考えること」という見方・考え方を働かせて、必要な事柄を多面的・多角的に精査し構造化する力（②思考力・判断力・表現力）を発揮し、収集した付箋紙の中から必要な付箋紙のみを選択する。そして、構成表の「中」の部分に選択した付箋紙を時系列に貼る（ツール活用能力）。

子どもは付箋紙を貼り終わると、そのときの気持ちや様子も入れるとさらに伝わる文章になるのではないかと考え始める。そこで、「どのような気持ちや様子であったか」としたことに対する気持ちや様子を問う。すると子どもは、「お餅を食べたこと」に対して「お餅を箸で持ち上げたら長くのびておもしろかった」「ほっぺたが落ちるほどおいしかった」などと発言し、構成表に貼ってある「お餅を食べたこと」の付箋紙の下に記述する。しかし、これだけではしたことに対する気持ちや様子を十分に書き表せない子どももいる。したことに対する気持ちや様子の記述が少ないと事実の羅列に終始する文章となりかねない。そこで、子どもの発言を拾いながら板書で分類整理することを通して、したことに対する気持ちや様子を全体で共有させる。このようにすることで、子どもは板書を参考にしてしたことに対する気持ちや様子を書き足すことができる。

その後、子どもは文章を記述する（①知識・技能）。記述後には、「よく分からないところはないか」「もっと詳しく聞いてみたいところはないか」という視点を基に班で互いの文章を読み返すことを通して子どもは最終的な文章を記述し（①知識・技能）、書くために必要な事柄を収集・選択し、経験したことを明確に書き表す子どもになる。

### 働き掛け5

交流会を設定し、伝えたいことを明確に書き表すことができた理由を問う。

子どもに文章を読み合わせ、様々な資質・能力を発揮したことで課題を解決できたことを自覚させるための働き掛けである。

最終的な文章が完成した後、互いの文章を交流させる場を設定する。すると子どもは、自分の書いた文章が相手に伝わることに気付く。そのような子どもに対して、「どのように書いたことで自分の考えが伝わる文章を書くことができたか」と自分の考えを明確に書き表すことができた理由を問う。すると子どもは、「書くことを集めてから選び、構成表を使って（ツール活用能力）、書くことを順序よく並べて（②思考力・判断力・表現力）、書いたからです」などと発言し、様々な資質・能力を発揮したことにより課題解決ができたことを自覚する。

6 指導計画 全7時間 (21Q)

別紙「単元カード」参照

7 本時の構想<第1日目> 2/7時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい

協働性を発揮しながら文章化する過程に見通しをもち、「言葉と相手や目的とを関係付けて考えること」という見方・考え方を働かせて、書くために必要な事柄を収集することができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿	教師の働き掛け
<p><b>1 本時の学習を理解する。</b></p> <p>○文章を書いて伝えたいと考えてはいるが、どのように書けばよいのかと問いをもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは、お餅をついたことを書きたいな。</li> <li>・おうちの人に書いて伝えたいな。</li> <li>・餅つき大会の文章をどうやって書いていこうかな。</li> <li>・どのように文章を書いていけばいいのだろう。</li> </ul>	<p>○学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どのように文章を書くか</p> </div> <p>○説明「みなさん、この前の国語の時間では、おうちの人に楽しかった餅つき大会の文章を書いていくことになりましたね。でも、悩んでいる人がいましたね。どんなことでしたか」</p> <p>※ どのように書けばよいのかと問いをもっている子どもの発言やつぶやきを拾う。</p>
<p><b>2 文章化する見通しをもつ。</b></p> <p>○どのように文章を書いていくか、ペアで話し合う。</p> <p style="text-align: right;"><b>★協働性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに、書くことを集めればいいんだよ。</li> <li>・付箋紙を使って餅つき大会でしたことを書いていくといいよ。</li> <li>・次に、集めた中から書くことを選べばよさそう。</li> <li>・そして、選んだ書くことを順序よく構成表に並べていけばよさそう。</li> <li>・構成表を使って、付箋紙を順序よく並べていけば文章が書けそう。気持ちや様子を書くことも大切だよ。</li> <li>・最後に、自分で文章を読み返してみたり、友達と読み合ってみたりアドバイスをしたりすることも大切だよ。</li> </ul>	<p>○発問「それでは、どのように文章を書いていけばよいのでしょうか。ペアの友達と話し合ってみましょう」</p> <p style="text-align: right;"><b>【働き掛け2】</b></p> <p>※ ペアで話し合わせる。</p> <p>○指示「話し合ったことを発表しましょう」</p> <p>※ 挙手を求め、どのように文章を書いていくかを「取材」「構成」「記述」(「推敲」「交流」)の順に発表させ、板書する。</p> <p>※ 「推敲」及び「交流」に関しては、子どもの発言があった場合のみ板書する。</p> <p>※ 何でそのようなことをするのか、よさは何なのかについて問い返す。</p> <p>※ 構成表に関する発言があった場合には、構成表を使うことのよさを問い返し、全体で共有させる。</p> <p>&lt;板書する文章化過程&gt;</p> <p>①書くことを集める。(書くことを付箋紙に書く)</p> <p>→書くことがたくさんあると書きやすいから。</p> <p>②書くことを選ぶ。(集めた中から必要な付箋紙を選ぶ)</p> <p>→書くことがたくさんあり過ぎても、すべてを書けないから。</p>

- ③書くことを並べる。(構成表に付箋紙を順序よく貼る)  
→書くことを「始め—中—終わり」でまとめると伝えたいことが伝わるから。
- ④文章を書く。  
→構成表を見ながら書く。
- (⑤文章を見直す, ⑥文章を書く, ⑦文章を読み合う)

○説明「どのように書いていけばよいか見通しをもつことができましたね。それでは, ①の書くことを集めるから始めてみましょう」

**3 餅つき大会の感想を表出し, したことを付箋紙に記述する。 ☆国語科②**

- 餅つき大会の感想を班で交流する。
  - ・太郎さんは, 上手にお餅をついていたね。
  - ・お餅を丸くしてきな粉を付けたことが楽しかったよね。
  - ・つきたてのお餅は, ほっぺたが落ちるほどおいしかったね。

- 餅つき大会でしたことを付箋紙に書く。
  - ・餅つきの準備をしたこと。
  - ・お餅を臼の中に入れたこと。
  - ・お餅のつき方を教えてもらったこと。
  - ・お餅をついたこと。
  - ・お餅を臼から出したこと。
  - ・きな粉やあんこの準備をしたこと。
  - ・お餅にきな粉やあんこを付けたこと。
  - ・お皿や箸の準備をしたこと。
  - ・お餅を食べたこと。
  - ・後片付けをしたこと。

○付箋紙に書いたことを発表する。

**○ぼくは, 「お餅をついたこと」「お餅にきな粉を付けたこと」「お餅を食べたこと」など, 餅つき大会でしたことを思い出して, たくさんの付箋紙に書き出すことができたよ。 ☆国語科②**

- 次時の内容を知る。
  - ・餅つき大会でしたことを付箋紙にたくさん書けたよ。明日は, この中から必要な付箋紙を選んで構成表に貼って, 文章を書いていきましょう。

○説明「餅つき大会でしたことを付箋紙に書く前に餅つき大会の感想を班で交流します。班の形になりましょう」

○指示「それでは, 餅つき大会でどんなことをしたのか, 班の人と話し合ってみましょう」

※ ペアで餅つき大会の感想を話し合わせましたことや感じたことを想起させる。

○指示「机を戻しましょう」

**○指示「それでは, 餅つき大会でしたことを付箋紙に書きます。これから5分間で, できるだけたくさん書いてみましょう」 【働き掛け3】**

※ 1人10枚程度の付箋紙を配付する。

※ 付箋紙が足りなくなった子どもがいた場合は, その都度個別に配付する。

○指示「みなさん, たくさんの付箋紙に餅つき大会でしたことを書き出すことができましたね。それでは, どのことを書いたか発表しましょう」

※ 挙手を求めて, 餅つき大会でしたことを発表させ, 板書する。

※ 付箋紙がたくさんあって, どのように使えばよいかといった反応があったときには取り上げて全体で共有させる。

○説明「それでは, 今日の学習では, 付箋紙を使って, 書くことを集めましたね。明日の国語の時間では, 集めた付箋紙を選んで構成表に並べていきましょう」

**(3) 評価**

協働性を発揮することで文章化する見通しをもち, 書くために必要な事柄を収集することができたか。

6 指導計画 全7時間 (21Q)

別紙「单元カード」参照

7 本時の構想<第2日目> 3/7時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい

構成表を用いてツール活用能力を発揮しながら簡単な構成を考え、「言葉と相手や目的とを関係付けて考えること」という見方・考え方を働かせて、つながりのある文章を書くことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿	教師の働き掛け
<p><b>1 本時の学習を理解する。</b></p> <p>○収集した事柄を選択し、構成表に順序よく並べて記述することを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始めにすることは、集めた付箋紙の中から必要なものを選ぶことだよ。</li> <li>・次に、選んだ付箋紙を構成表に順序よく貼ってあげよう。</li> <li>・最後に、構成表をよく見ながら文章を書いていくよ。</li> </ul>	<p>○学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どのように書くことを並べるか</p> </div> <p>○説明「昨日の授業では、餅つき大会でしたことをたくさんの付箋紙に書き出せましたね。そして、今日の学習ではどのようなことをするのでしたか」</p>
<p><b>2 文章化するために必要な付箋紙を選択し、構成表に気持ちや様子を記述する。</b></p> <p>○収集した付箋紙の中から必要な付箋紙を選択し、構成表の「中」部分に貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは、「お餅をついたこと」「お餅にきな粉を付けたこと」「お餅を食べたこと」の付箋紙を選びました。この付箋紙を構成表に順序を考えて貼るよ。</li> </ul> <p>○したことに対する気持ちや様子を構成表に書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お餅をついたこと」の付箋紙の下には、「杵が思っていたよりも重かった」「お餅を10回もつくことができてうれしかった」と書こう。</li> <li>・「お餅にきな粉を付けたこと」の付箋紙の下には、「お餅を触るともちもちしていた」「お餅をころころ丸めるのが楽しかった」と書こう。</li> <li>・「お餅を食べたこと」の付箋紙の下には、「お餅を箸で持ち上げたら長くのびておもしろかった」「ほっぺたが落ちるほどおいしかった」と書こう。</li> </ul>	<p>○発問「それでは、おうちの人に楽しかった餅つき大会を伝えるために必要な付箋紙はどれですか。必要な付箋紙を選んで、構成表に貼ってみましょう」 【働き掛け4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 構成表を配付する。</li> <li>※ 構成表の「中」の部分に選択させた付箋紙を貼らせる。</li> <li>※ 必要に応じて、ペアの友達と話し合いながら進めてもよいこととする。</li> </ul> <p>○発問「みなさん、付箋紙を選んで構成表に貼ることができましたね。それでは、選んだ付箋紙について、そのときどんな気持ちや様子でしたか。選んだ付箋紙の下に書いていきましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 貼り付けた付箋紙の下に気持ちや様子を記述させる。</li> </ul> <p>○指示「どのようなことを書いたのか発表しましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 挙手を求め、選択した付箋紙と気持ちや様子とを全体の前で発表させる。</li> <li>※ 子どもの発言を板書で分類整理する。</li> </ul> <p>&lt;板書する気持ちや様子&gt; 「お餅をついたこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杵と臼がとても大きかった。(視)</li> <li>・お餅をつくときにドシンドシんと大きな音がした。(聴)</li> </ul>

<p>・友達の発表を聞いて、構成表に気持ちや様子を書き足したい人は、挙手をする。</p> <p>・友達の発表を聞いて、構成表に気持ちや様子を書き足したい人は、赤鉛筆で書き足す。</p> <p>○私は、「お餅をついたこと」の付箋紙を選びました。初めてお餅をついてみたけれど、思っていたよりも上手につくことができうれしかったです。 ★国語科② ★ツール活用能力</p>	<p>・餅米のよいにおいがした。(嗅)</p> <p>・杵が思っていたよりも重かった。(触)</p> <p>・お餅を10回もつくことができうれしかった。</p> <p>「お餅にきな粉を付けたこと」</p> <p>・きな粉とあんこがおいしそうだった。(視)</p> <p>・花子さんから「お餅を丸めるのが上手だね」と言われてうれしかった。(聴)</p> <p>・きな粉とあんこの甘いにおいがした。(嗅)</p> <p>・お餅を触るともちもちしていた。(触)</p> <p>・お餅をころころ丸めるのが楽しかった。</p> <p>「お餅を食べたこと」</p> <p>・お餅を箸で持ち上げたら長くのびておもしろかった。(視)</p> <p>・太郎さんと「お餅がおいしいね」と話をした。(聴)</p> <p>・お餅のおいしそうな臭いがした。(嗅)</p> <p>・ほっぺたが落ちるほどおいしかった。(味)</p> <p>・きな粉餅がおいしかった。(味)</p> <p>○指示「友達の発表を聞いて、構成表に気持ちや様子を書き足したい人はいますか」(挙手を求める)</p> <p>○指示「構成表に気持ちや様子を付け足したい人は、赤鉛筆で書き足してみよう」</p> <p>※ 必要に応じて気持ちや様子を構成表に赤鉛筆で書き足させる。</p>
<p><b>3 文章を記述する。 ★国語科①</b></p> <p>○構成表を見ながら文章を記述する。</p> <p>・一月〇日に、多目的ホールで2組のみんなと餅つき大会をしました。</p> <p>はじめに、お餅をつきました。杵が思っていたよりも重かったです。花子さんと力を合わせてお餅を10回もつくことができうれしかったです。</p> <p>次に、お餅にきな粉を付けました。お餅を触るともちもちしていました。お餅をころころ丸めるのが楽しかったです。</p> <p>最後に、お餅を食べました。お餅を箸で持ち上げたら長くのびておもしろかったです。ほっぺたが落ちるほどおいしかったです。</p> <p>このように、私はみんなと餅つき大会をして楽しかったです。また来年も餅つき大会がしたいです。</p> <p>○次時の内容を知る。</p> <p>・餅つき大会の文章を書いたよ。でも、まだ書き途中だから、次の時間でも続きを書きたいな。</p>	<p>○指示「それでは、構成を考えた人から文章を書いてみましょう」</p> <p>※ 原稿用紙を配付する。</p> <p>○説明「それでは、今日の学習では、構成表を使って、書くことを並べて文章を書きましたね。次の国語の時間では、続きを書いて、文章を完成させましょう」</p>

**(3) 評価**

簡単な構成を考え、つながりのある文章を書くことができたか。

